＝　はじめの一歩　＝

バラ、ライラック、ハナミズキ、そして、ツツジにフジ（藤）、花の香りを運び、青葉若葉を吹きわたる爽やかな初夏の風。風薫る５月とはよく言ったものだ。

なかでも、４月中旬から５月にかけては藤棚が見ごろ。多くの地域で藤棚の名所が紹介されている。垂れ下がるように咲く藤の美しい花姿、そしてその香り、近寄ってほのかな甘い香りを楽しむ人も多い。沢山の園芸品種が存在し、花の種類も、しろやピンクなど色とりどり。でも、私は紫色がいい。淡い青みのある上品な紫色は、そのまま花の名をとって、藤色といわれている。そのむかし、身分の高い人しか身につけられない高貴な色とされてきた。可憐ではかなさも魅力なのかもしれないが、藤の花は風でも散りやすく、強い風が続くとつぼみのままで散るのは残念。

散ると言えば、二度と経験したくない、苦杯をなめた国政選挙が連想される。４月に行われた衆参補欠選挙の結果は皆さんご承知の通り。

選挙である以上、対抗馬に勝たなければバッジはつけられない。だが、本来の目的をはき違えている方も多く、聞こえのいい話だけで、政策は見えず、具体論はなく、中には他党や他候補に対し、批判や疑念を繰り返すだけで、なにやら矛盾ばかりの政党や候補者も見受けられた。

ご存じの通り、「矛盾」とは、むかし中国の楚の国で、矛（ほこ）と盾（たて）を売っていた者が、「この矛はどんなかたい盾をも突き通すことができ、この盾はどんな矛でも突き通すことができない」と誇った。それを見ていた聴衆が、「それではお前の矛でお前の盾を突けばどうなるか」と尋ねられて答えることができなかったという故事から、二つの物事がくいちがっていて、つじつまが合わないことをいう。

類語には、ずれ・行き違いや、食い違う、齟齬、二律背反、不一致、相容れない、対立などがある。政権交代をめざさない野党なんて要らないが、単一政党だけではかなわない時代であることは多くの有権者の知るところ。であるからこそ、二大政党的政治体制を私たちは標榜している。いわゆる左派を除いた野党の結集が必要であり、政治家の皆さんが、「不一致、相容れない、」などとならぬ努力と言動を期待したい。矛盾の対義語である、「整合」性を持って、「両立」できる強い野党となり、その先に政権交代あり、という姿を見せてもらいたいもの。そのための、確かな一歩を望むばかり。

その一歩にちなんで、卒園ソング、泣ける子供の歌といわれる「はじめの一歩」の歌詞を紹介したい。

小さな鳥がうたっているよ ぼくらに朝がおとずれたよと
　　きのうとちがう朝日がのぼる 川のながれもかがやいている
　　はじめの一歩 あしたに一歩 きょうから なにもかもがあたらしい
　　はじめの一歩 あしたに一歩 勇気をもって 大きく 一歩 歩きだせ

信じることを忘れちゃいけない かならず朝はおとずれるから
　　ぼくらの夢をなくしちゃいけない きっといつかはかなうはずだよ
　　はじめの一歩 あしたに一歩 きょうから なにもかもがあたらしい
　　はじめの一歩 あしたに一歩 生まれかわって 大きく 一歩 歩きだせ

この４月、基幹労連に３人の新人が入ってきた。入職式で、いくつか歓迎と期待の意を込めてお話しさせていただいた。その一つに「初心安心」という言葉をおくった。希望を抱いて入職した今の思いを時々振り返ってみることが大事。初心貫徹という重い荷物より、心軽やかに自ら選んだ道を歩んでいくための言葉として。

基幹労連は、この秋に結成20周年を迎える。私たち労働組合役員も、組合員の皆さんと共に、働く仲間とその家族の幸せ追求を旨とし、歩きだした「はじめの一歩」を忘れまい。

ご安全に

2023年５月１日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長　神田 健一